

ATSUMA LOVERS

新型コロナウイルス感染症は、日常生活を一変させました。国は、初めて全国に「緊急事態宣言」を発令して自粛の要請を強化。ステイホームの励行や事業者への休業要請、イベントの自粛など、社会活動は停滞しました。5月25日までに宣言は解除され、規制は緩和されましたが、3密の回避やマスクの着用など、「新しい生活様式」の実践が始まりました。

町内では5月27日から、感染防止策を講じながら公共施設の運用を再開。5月30日に営業を再開した「こぶしの湯あつま」で、藤井隆之さんに話を聞きました。



Vol.02 (株)あつまスタンプ会社社長
藤井隆之さん(67歳)

町民と共に育む郷土愛

厚真町出身で、家業の商店の3代目。町商工会副会長や観光協合理事なども務め、「顔が見える付き合い」を大切にしている。

平成21年、先代社長の急逝に伴い、「こぶしの湯あつま」を管理するあつまスタンプ会の社長に就任した。「正直、ナンバーワンが苦手でね。心の準備もないまま後を継ぎました。町民に愛される施設にしたいという一心で、運営に当たっていますね」。

藤井さんは、これまで胆振東部地震と新型コロナウイルス感染症という2度の“試練”に直面した。

胆振東部地震では、露天風呂が地盤沈下するなど施設は被災。発生から2週間余りでレストランを営業し、約2か月後に内風呂も提供した。昨年5月に露天風呂の改修工事を終え、札幌市内の老人クラブの利用増などで、活況を取り戻し始めたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、4月1日から約

2カ月の全面休業を強いられた。休業後は、斉藤真一支配人(54歳)らが交代で出勤し、1日平均約50件の電話応対に追われた。多くは営業再開を待ち望む声。「開けたらまた行くからね」や「入浴を楽しみにしているから、頑張つてね」などと激励され、山菜を差し入れた人もいる。「苦境に立たされ、改めて人と人のつながりの大切さを実感しました」と藤井さんは胸中を教えてくれた。

再開にあたり、玄関前にプレハブを設け、非接触型体温計で入館者を検温。また、受付に透明なシートを張って飛沫感染を防止し、消毒や換気の徹底、パネルを掲示して館内でのマスク着用やサウナなどの使用制限など注意を促した。

藤井さんは「厚真町の魅力の一つは、互いに支え合う開拓者精神。厚真スピリットを磨き、住みよいまちづくりのために力を尽くしたい」と胸を張った。

あなたにとっての
愛すべき厚真を投稿してください

ATSUMA LOVERS

フェイスブック @atsumatownhokkaido インスタグラム atsumalovers

ハッシュタグ #atsumalovers をつけてフェイスブックまたはインスタグラムに投稿してください。